

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

わかる授業で自信を持ち一人ひとりの個性を大切に、生徒が本来持っている可能性を引き出すことで夢を実現する学校づくりをめざす。

- 1 生徒のやる気に応え、夢を実現するために基礎学力の定着と社会の基本的なルールやマナーを身につける。
- 2 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、すべての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
- 3 様々な人との出会いを通じてコミュニケーション力を高め、「地域を支える人材」として人々のために進んで社会貢献できる生徒を育成する。

2 中期的目標

生徒がそれぞれの夢を実現するために、教職員は生徒自らが成長するために努力することを全力で支援する。

【生徒に育みたい力】 ① 自己と他者を大切にできる力 ② 豊かな人生を送るための人とつながる力 ③ 社会の変化に適応できる考える力

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。
- イ 生徒が「考える力」を身に付けることができるように授業内容を工夫する。(エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。)
全ての教科で「授業を受けて何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の「学習力」向上を意識した授業を実施し評価につなげる。
- ウ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。
全ての普通教室でインターネットがつながる環境を早期に整備する。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を、令和5年度には75%にする(H30・R1・R2:66%・61%・71%)

2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信

(1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

- ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「面倒見の良い学校」づくりをめざす。SC、SSWと連携し生徒情報共有会議を密接に行う。
- イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
- ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動の活性化を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和5年度には65%にする(H30・R1・R2:60%・60%・64%)

(2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。

- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
日々の学習が進路実現につながることを意識し、1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む。
- イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
- ウ 問題行動の未然防止に取り組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
個々の生徒の状況に応じた寄り添った支援、生徒・保護者が納得できる指導と支援を実施する。
- ※ 就職内定率の向上をめざし、毎年度95%以上を維持する。(H30・R1・R2:100%・100%・96%)

(3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

- ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことでいじめや差別の未然防止に努める。
- イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を令和5年度には80%にする(H30・R1・R2:73%・71%・75%)

(4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

- ア 授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報する。
- イ 「面倒見の良い学校」を中学校、中学生・保護者にアピールするとともに、生徒委員会活動を活性化させて、「面倒見の良い学校」から「生徒自らが主体的に活動する学校」へのステップアップをめざす。
- ウ 地域と積極的に関わることでボランティア活動を活性化し、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

- (1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関わり登校できない生徒の「学びの保障」の観点からICT環境を早期に整備する。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応で教職員の負担が増大させないために積極的に外部人材を活用し業務の効率化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
・回答数生徒: 559名中476名(85.2%、昨年91.0%、一昨年94.8%) 保護者: 266名(47.6%、昨年50.6%、一昨年53.3%) 教員60名(100%) 紙ベースからデジタルでの回答に変更し、若干回答数は減ったが、有効な回答数を維持できた。	第1回 令和3年7月17日(土) <以下の内容について報告> ① 令和2年度 エンパワメントスクール(ES)4期卒業生の状況 ② ES7期生の状況 ③ 令和2年度学校評価、令和3年度学校経営計画

＜生徒向け自己診断より＞

○「長吉高校の授業は、わかりやすい。」については、78.4%で、目標の70%を大きく上回った。教職員の授業改善や工夫が生徒に効果的に作用。
○長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う。」については63.2%と目標の63%を上回った。これは「産業社会と人間」や「ソーシャルスキルトレーニング」などの授業や、3年生において就職や進学にむけての面接練習を重ねる中で、自信を付けていることが大きな要因。

○「悩みや相談に、ていねいに応じてくれる先生がいる。」については61.4%と、昨年より数値が減少し、目標の65%を下回った。コロナ禍における距離の遠さが要因として考えられる。今後、個々の生徒の特性を理解し、生徒の悩みに寄り添う援助的な関わりを意識的に行うことが必要。

○「制限された中ではなるが、学校行事やHRは楽しい。」については、71.3%と目標の69%を上回ることができた。生徒も教職員もコロナ禍の中での学校行事の形態など、制限・制約をしっかりと理解した上で、その中でできることを考え、実施することができたこと、何より教員の熱意ある指導が数値の上昇につながった。

○「自分からあいさつやお礼を言うことができる。」については83.4%と、目標の80%を上回った。始業式等での呼びかけや毎朝の教職員による正門での声掛け等、学校全体での取り組みによる成果。

○「外国の文化に触れる機会が多く、多文化共生が進んでいる。」については72.5%と、昨年度75%に対して減少。コロナ禍により、行事や部活動に大きな制約があり、外国にルーツを持つ生徒が全校生徒の前に出て発表したり、多文化を身近に感じる交流が制限されたことが影響しているので、コロナ禍の落ち着きとともに徐々に発表や交流の機会を復活させたい。ただ、生徒たちが、日頃の授業や生活が、ルーツのある生徒や教員と共に生きることを自然なことだと感じ、普段の日常としてとらえ、「多文化共生」として意識さえしていなかったら、大きな成果だと思われる。

＜保護者向け自己診断より＞

○「学校はエンパワの教育方針を伝え、情報提供の努力をしている。」については、H29年度から63%→68%→74%→72%で、今年度は75.9%と概ね高い数字を維持できている。

○「学校は進路や職業などについて丁寧な指導を行っている。」については、H29年度から56%→64%→58%→64%で、今年度は60.9%と減少。早い段階から保護者に向けて分かりやすく進路情報を提供するということが今後の課題。

○「担任やその他の先生に相談しやすい。」については、H29年度から60%→59%→62%→66%で、今年度は68.1%と上昇。学年を重ねるに従い保護者の信頼が増していることが大きな成果。

＜教員向け自己診断より＞

○「生徒は授業にまじめに取り組んでいる。」については、H29年度から42%→44%→41%→53%で、今年度は58.4%と増加。

○「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」については、H29年度から78%→87%→72%→77%で、今年度は71.7%と少し減少。

○「生徒や保護者の意見を聞く姿勢がある。」についてはH29年度から87%→84%→90%→90%で、今年度91.6%と高い数値を維持。

○「わかる喜びや学ぶ意欲を呼び起こし生徒の力を引き出す学校である。」については、H29年度から50%→63%→64%→61%で、今年度85.0%で大幅に増加。エンパワメントスクールに適した学校づくりに対しての共通の認識が持っていると考えられる。

○「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」については、H29年度から75%→69%→72%→63%で、今年度90.0%と大幅に増加。教員間で日常的に情報共有する機会や時間がとることができたと考えられる。

○「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」については、H29年度から58%→65%→62%→50%で、今年度86.6%と大幅に増加。昨年度での学校教育自己診断やアンケート、提案などを具体的な指導方針や方法として速やかに盛り込んでいったことが一定評価されたと思われる。

＜全体を通して＞

○今年度もコロナ禍により、臨時休業等、教育活動に様々な制限・制約を余儀なくされた年であった。そんな中でも、生徒も教職員も屈することなく、できることを模索し、実行し、本校の底力を大いに発揮した。

○昨年度に引き続きコロナ禍での制限された中での学校生活において、いい意味で生徒は順応している部分を感じられた。また、今年度も数回、臨時休校があり、生徒が家庭で学習しなければならないということもあった。家庭では、自主学习できず、学習や進路の支援も受けられない生徒が多く、学校に登校し直接教員より授業や指導を受けることの大切さを生徒たちが実感したからではないだろうか。対面式授業や制約があったとしても学校行事、進路指導への生徒の学校や教員への期待は低くない。また、教職員も授業改善や、学校行事に力を入れ、行ってきたように感じられる。そういった結果、生徒の「エンパワメントスクールに来て良かった」の満

＜協議内容・承認事項等＞

・考える力は疑問を持つ力だと考えられる。授業で学んだ内容や話から関連づけて別の疑問がでてくるといった、疑問が出てくる能力は大事であると考え。まずはわかりやすい授業を追求していき、加えて「自分で考えさせる力」をつけさせる授業を作る必要がある。
・観点別評価が変わることで、「何ができるようになったか」「どれだけ伸ばせたか」という観点別に見ることができる。評価が変わることから授業もそれに伴い、変えていく必要がある。

第2回 令和3年11月17日(水)

＜授業見学の後、以下の内容について報告＞

- ① 令和4年度教科書選定
- ② 令和3年度1学期授業アンケートの結果について
- ③ E S 5期生の進路状況(令和3年10月末)
- ④ 生徒1人1台端末の活用について

＜協議内容・承認事項等＞

○進路実現をめざした授業改善について

・生徒にどのような力をつけて進路を実現させるか、数字で表れない課題はどのような問題があるのか、教職員の共通理解が必要である。

○エンパワメントタイム(「正解が一つでない問題」)を考えることについて

・学校行事や部活動などでの自分の意見を発言する場を作る必要がある。

○中学校と高校の連携

・以前、行っていた長吉西中学校との授業見学の交流会を再開し、中学校の指導のあり方を参考にさせていただく。

○オンライン授業について

・生徒ができるかと不安に思うのではなく、教職員がもっと生徒を信じて指導、対応をしていく必要がある。

第3回 令和4年2月5日(土)

＜以下の内容について報告＞

- ① 令和3年度第2回学校運営協議会のまとめ
- ② 令和3年度2学期授業アンケートについて
- ③ 令和3年度学校教育自己診断
- ④ 令和3年度学校経営計画及び評価
- ⑤ 令和4年度学校経営計画及び評価

＜協議内容・承認事項等＞

○2学期の授業アンケート

・今年度は2年生の授業の興味・関心、達成感が例年に比べて高かった。生徒に寄り添った授業を2年生以降の難しい内容でも生徒が満足できるように心がけていく必要がある。

○令和3年度学校教育自己診断

・コロナ禍による制限は多くあったが、学校行事等において生徒も教職員も屈することなく、できることを模索し実行することができた。

・エンパワメントスクールにきてよかったという診断結果は各学年ともに上がってきており、授業がわかりやすいという満足感や校則の納得感が上がったためであると考えられる。

○令和3年度学校経営計画及び評価

・自尊感情が低い生徒に対して、生徒自身の良さを伝えていき、授業などの日々の学習を通して自尊感情を高めていく必要がある。

・4月からの成人年齢が18歳に引き下げられる。様々な責任が個人にかかる課題があげられるが、授業面や生徒指導面で対応していただきたい。

・問題行動を繰り返す起こす生徒の原因は何なのか。

・ICT機器を用いた授業づくりでは教職員も学び続ける必要がある。コロナで自宅待機中の生徒にもオンラインを積極的に活用していただきたい。

○令和4年度学校経営計画及び評価

・授業では生徒の主体性があるように感じられた。生徒の力をどう引き出していくのか、ということが必要である。

・長吉高校の教員は面倒見がよいが、面倒を見すぎてしまうと生徒の主体性の発揮を損なう恐れもある。

・校則の指導について今年度の1年生の納得度は非常に高い数値となっているが、次年度もこの数値をめざす必要がある。

・コロナ禍により「従来通り」ではないオンライン授業などの新しい対応が必要になってきている。教員間のコミュニケーションをふやして新しい変化に対応していく柔軟性を大切にしていきたい。

<p>足度が全学年で70%を超えたと考えられる。</p> <p>○教育庁高校再編成備課の分析によると、「③長吉高校の授業はわかりやすい」「⑥自分の考えや意見を伝える力がついた」「⑩先生の指導は納得できる」「⑫学校行事に満足している」等の項目と「学校満足度」を問う項目は相関関係があるといわれて、今年度は③⑩⑫の項目について増加しており、満足度も67%→75.9%となった。今後、エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」が80%以上とするためにも、生徒・保護者の意見を聞きながら工夫した取り組みを行う必要がある。</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	<p>(1)「わかる授業」 「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善。</p> <p>ア 「わかる授業」づくりのための授業改善</p> <p>イ 「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。</p> <p>イ 新学習指導要領を見据え「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む</p> <p>ウ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践。(生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。等)</p>	<p>(1) 考查期間等を活用し少数での意見交流型研修を3回以上実施する。</p> <p>ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を1回以上実施する。</p> <p>・公開授業週間を年間2回以上実施する。</p> <p>・学校教育自己診断結果における生徒の授業満足度70%以上の維持[71%]</p> <p>イ・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を2回以上実施する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)の「ICT機器の活用」項目の肯定的回答78%[77%]</p>	<p>(1)</p> <p>・授業改善に向けた意見交流を4回実施した。(◎)</p> <p>ア・各教科担当が他のエンパワメントスクールを訪問し、各校の取組みの情報を収集し、教科会議で共有した。(○)</p> <p>・6月、11月に公開授業週間を実施(◎)</p> <p>・「授業のわかりやすさ」肯定的回答は学校全体では78.4%(◎)</p> <p>イ・ICT機器を活用した教員は88.3%(◎)オンライン授業の構築を進めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を更に進める。</p>
2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	<p>(1)セーフティネットの拡充</p> <p>ア 「面倒見の良い学校」づくり</p> <p>イ 図書室の活性化</p> <p>ウ 学校行事の改善 部活動の活性化</p> <p>(2)キャリア教育の確立</p> <p>ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p> <p>ウ 社会人としての態度・マナーの育成</p> <p>(3)人権教育の推進</p> <p>イ 多文化共生の学校</p> <p>(4)中学校等への広報強化</p> <p>ア 授業公開</p>	<p>(1)</p> <p>ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導</p> <p>・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。</p> <p>イ 図書室を充実させ居場所を作る。</p> <p>ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。</p> <p>・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。</p> <p>・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。</p> <p>イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ・社会人として必要なマナーとして、遅刻や服装・頭髪等について指導する。</p> <p>・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。</p> <p>※(1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める</p> <p>(4)</p> <p>ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。</p> <p>・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答65%[64%]。</p> <p>・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答67%[66%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答69%[67%]</p> <p>・年度末における1年生の部活動加入率50%をめざす。[40%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率95%以上の維持[90%]</p> <p>イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答63%[62%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持[83%]</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を1回以上企画する。</p> <p>※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答68%[67%]</p> <p>(4)</p> <p>ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を2回以上実施する。</p> <p>・学校行事や授業の様子をHPで紹介する。(年間3回以上更新する。)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・入学前の3月に全ての中学校にヒアリングを実施するとともに、入学後すぐに懇談期間を設けて懇談を実施。全学年で短縮期間中に懇談を実施。今後は指導と援助の切り替えを意識して行うことが必要である。</p> <p>生徒の肯定的回答は61.4%(△)</p> <p>・保護者の肯定的回答は68.1%(◎)</p> <p>学年が上がるにしたがって肯定的回答が高く保護者の信頼が増している。3年は71.4%</p> <p>ウ・生徒の肯定的回答は71.2%(◎)</p> <p>コロナ禍で制限・制約のある中、屈することなく、よくやり切った。教員の熱意ある指導の成果。</p> <p>・①1年生の部活動加入率40%。年度初めの入部時期にコロナ禍による部活動禁止措置の影響が大きなマイナス要因である。生徒自主活動を今後とも推進する。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・新型コロナウイルスの影響で就職が厳しい状況だが、1月末で学校斡旋の就職内定率98.3%を達成。(◎)</p> <p>イ・肯定的回答は63.2%(○)進路指導も含め、3年間の取組みが大きく効果をあげた。今後は2年生への取組も強化したい。</p> <p>ウ・肯定的回答は83.4%(○)</p> <p>全学年で肯定的回答が80%を超えた。朝の校門での挨拶活動が効果的と考える。今後も教職員からの声掛けを継続したい。</p> <p>(3)</p> <p>イ・授業を通じて外国にルーツがある生徒が母国を紹介する機会を企画した。(○)</p> <p>「多文化共生が進んでいる」の肯定的回答は72.5%。</p> <p>※「エンパワメントスクールに来て良かった」の肯定的回答は75.9%(◎)</p> <p>今後も「授業のわかりやすさ」、「考え・</p>

府立長吉高等学校

				<p>意見を伝える力」、「行事の満足度」、「指導の納得」の項目を工夫して学校満足度を向上させたい。</p> <p>(4)</p> <p>ア・新型コロナウイルス感染症防止の観点から 保護者・他校教員への 公開授業は中止。収束後は復活させる。②(-)</p> <p>・H P を通じて学校の広報活動を実施。更新の頻度も上がっている。(○)</p>
3 I C T を 活 用 し た 校 務 の 効 率 化	<p>(1) I C T等の活用による校務の効率化</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成</p> <p>(3) I C T環境の早期整備</p>	<p>(1) 校務処理システムやI C T等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成を図る。</p> <p>・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。</p> <p>(3) 家庭学習を視野に入れたI C T環境を整備する。</p>	<p>(1) 一部の教職員に集中する校務を削減し、時間外勤務月 80 時間以上の職員を半減する。[6名]</p> <p>(2) 教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に 1 回以上実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>・③4名。事務作業をI C T等の活用や情報処理の効率化により極力削減し、マンパワーを授業改善及び生徒指導に集中できるように努めたが、生徒実態の厳しさやコロナ禍によるイレギュラーな対応に多くの時間を費やし 80 時間以上の職員をなくすことはできなかった。(△)</p> <p>今後も生徒に関わる時間確保に努める。</p> <p>2 ・首席を中心にベテラン教職員によるO J T を活用したミドルリーダー育成を実施。</p> <p>・経験年数の少ない教員研修 は 10 回 実施。(◎)</p>